

大分県立図書館運営の状況に関する評価

○ 図書館法の規定に基づき、令和6年度の運営の状況について評価を行ったもの。

・図書館法第7条の3

図書館は、当該図書館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

・評価の方法

各年度に定めた重点目標ごと評価指標を設定、年度終了後に指標ごと実績値について県立図書館が自己評価、図書館協議会委員が外部評価（委員意見）を行い、その結果をHPに掲載して公開する。

【自己評価（AからDの4段階）】

A:非常に成果があがっている。
B:成果があがっている。
C:それほど成果があがっていない。
D:全く成果があがっていない。

○ 評価及び意見

（1）DXの推進による非来館型サービス・情報発信の充実

評価指標

・デジタルアーカイブの資料閲覧数

令和6年度実績	8,744件
令和5年度実績	5,469件

自己評価	理 由
A	令和5年2月に豊の国情報ライブラリー3館共同で開始した「おおいたデジタル資料室」は、令和6年度の資料閲覧数が前年度から60.0%増加した。図書館では前年度に引き続き800点の郷土資料を公開するとともに、市町村関係機関の資料登録を行うなどコンテンツの充実に努めた。

委員意見	・DX推進を今後もお願いしたい。
	・「おおいたデジタル資料室」が、県公文書館・先哲史料館、県内関係機関とともに内容の充実が図られており、その利用が前年度比60.0%増加しているということは、素晴らしいことだと考える。今後も、郷土資料のデジタル化を進めるとともに、利用が促進されるように情報発信にも努めてほしい。
	・デジタル資料室で歴史地図を見せていただき、「おもしろい」と思った。「ちょっとやってみたい」と申し出ただけで、すぐに応じて探索させていただいて、アーカイブの価値ある資料が保存されている意義を実感した。将来にわたって保管できる機能をさらに充実させてもらいたい。
	・このままの体制を続けて、さらに資料を充実させてほしい。まだ、県民に十分浸透していないと思われるので、もっと情報発信を積極的に行ってほしい。

(2) 多様な利用者の読書活動の推進

評価指標

・入館者数

令和6年度実績	315,280人
令和5年度実績	307,237人

自己評価	理 由
B	前年度に比べて2.6%増加した。 コロナ禍が終息し、一般資料室等が5.9%、研修室が8.5%、視聴覚ホールが5.7%増加する一方、学習室は5.2%減少しているが、概ねコロナ前の水準に戻りつつある。

委員意見	・視聴覚ホールの充実が進んでいてよい。
	・学習室利用が減少しているように見えるのは、間隔を空けるため座席数を減少させた結果とのこと。入館者数が前年度比で増加していることは、県立図書館の利用が広がっていることの表れといえる。令和6年度の年間利用冊数495,303冊をさらに増やすことに加えて、多様なニーズを把握し対応することに努めてほしい。
	・県立図書館の多岐にわたる業務のDX化は欠かせないと思っている。それと、急激に進化するデジタルの波に取り組める人材の育成も不可欠ではないか。 ・図書館を訪れることなく本を借りられるのは、利用者は便利である一方、梱包や発送のバックヤードの仕事量が増えるので、こちらも、機械の力を利用して効率を考慮することを勧める。
	・(学習室の)全体の席数が減っているということを聞いて、数字に納得している。大学でも、図書館の新装の際に1人用の席を増やしたところ、そちらに利用者が集中している。コロナ以降、1人用の席の需要が増えているので、席の配置を考え直してもよいのではないか。

(3) 子どもの読書活動の推進

評価指標

・子ども室貸出冊数

令和6年度実績	152,559冊
令和5年度実績	159,378冊

自己評価	理 由
B	前年度に比べて4.3%減少、1日当たり貸出冊数では令和5年度506冊から令和6年度494冊と2.4%減少しているものの、子ども室のおはなし会の参加人数は令和5年度の1,388人から令和6年度の1,707人と23.0%増加し、コロナ前の平成30年の1,501人と比較しても上回っている。

委員意見	・私の勤務校では、子どもたちが熱中症対策で休み時間に外で遊べないことが多いため、教員が交代で昼休みに読み聞かせをしている。読み聞かせの大切さを感じているところなので、今後も取組を充実させてもらいたい。
	・子ども室の貸出冊数が対前年度比4.3%減少していることと、子ども室のおはなし会の参加者が対前年度比23.0%増加していることを考え合わせると、おはなし会へのリピーターが多くなっていることが想像できる。おはなし会をはじめ本に親しむような取組への参加者がさらに多くなり、本を借りて読書してもらえるように、さらに情報発信に努めてほしい。 ・併せて、学校における読書活動との連携を図ることも必要だと考える。
	・土日の県立図書館には、若いお父さんと子どもの姿が多くなった。おはなし会にも参加して最後まで楽しんでいる。提示された資料に、子ども室のおはなし会が昨年比23.0%増とあった。その中味は、おはなし会の種類の多さにもあると思う。 ・また、男女共同参画や働き方改革が浸透してきた社会状況下、子守りのためであっても「図書館に行こう」という父親の、子どもの読書に関わる機会になっていることが、今後も増えていくように願っている。
	・「おはなし会」は今後とも持続してほしい。大学で朗読会を開催した折、子ども向けの朗読も行ったが、その後、絵本がある場所に参加者を誘導したところ、子どもが実物にふれることができ喜んでいたということを聞いた。聞かせることから、それを文字として親しませることへと結びつける取組があってもよいのではないか。

(4) 資料収集・保存・提供の推進

評価指標

・全資料数(デジタル化資料を含む)

令和6年度実績	1,257,987冊
令和5年度実績	1,245,142冊

自己評価	理 由
A	県立図書館としての蔵書構成を維持し、専門書を中心に約1.9万冊の幅広い資料収集に努めた。一般資料の購入における専門書購入割合は49.6%と高水準を維持しつつ、国庫補助金を活用し、電子書籍やバリアフリー資料の充実を図った。また、収蔵スペースを確保するため、重複本など約1.2万冊の除籍を行った。さらに、令和5年度に新書庫を増設したことに伴い、郷土資料を中心に約13万冊を書庫全体に再配分し、資料の適正な収蔵を行った。

委員意見	・デジタル化を推進してほしい。
	・デジタル化資料を含め全資料数が増加し、「専門性」と「多様性・広域性」をコンセプトにした県立図書館の資料収集が進んでいることは、喜ばしいことだと考える。 ・収蔵スペースの確保も、今後も考え続けなければならない問題だと思う。
	・図書館に感謝し、生涯ともに歩む」という思いをより強くするような利用者への啓発も、今後必要になってくると思う。
	・従来どおり、「県立」としての方向性を保ってほしい。 ・大分には優れた文学者がいること、また、大分は文学に表現されていることが多いことをふまえ、文学と大分という展示について、様々な視点から行ってほしい。

(5) 県民・地域の課題解決の支援、多様な学習機会の提供

評価指標

・レファレンス件数(簡易なものを除く)

令和6年度実績	6,876件
令和5年度実績	7,471件

自己評価	理 由
B	8%減少したが、簡易なものを含む全体の受付件数は横ばい(約14,000件)となっている。資料の収集や情報提供に力を入れている行政支援・ビジネス支援関係のレファレンス、県内公共図書館・学校図書館からのレファレンスは、前年度に比べて38.7%増加している。

委員意見	・メールレファレンスの回答期限が早くても1週間なので、時間に余裕のない時は依頼しづらい面があるのではないかな。
	・学校での調べ学習において課題解決の支援が受けやすくなるとよい。
	・レファレンス件数が減少しているが、レファレンスは年間の件数が多ければいいというものではなく、レファレンスは県民が知りたいことにいかに答えたかということが大切だと考える。県民サービスの視点から、レファレンスへの回答の内容の充実さらに努めてほしい。
	・県内の市町村図書館は、多くが建て替えて、同時に資料の充実を図っている。ある程度の資料は地域にある公共図書館を利用したのかもしれない。しかし、市町村の図書館にはない資料の充実とアーカイブの資料などは、県立図書館にしかないものがあり、“困った時は県立図書館”が合言葉となって、県民の心に位置づくといいなと思っている。
	・図書館によって問題解決がなされたという県民の具体的意見を知らせる場があってもよいのではないだろうか。 ・また、生徒に関しては、あらかじめ、テーマを募集し、まず、それについて自分で学習しておき、疑問点をどのように図書館で調べ、解決したかというような問題提起、学習、解決という時間の流れに沿った学習についての発表の機会を設けてはどうか。

(6) 市町村立図書館、学校図書館等支援

評価指標

・協力貸出冊数

令和6年度実績	17,217冊
令和5年度実績	19,186冊

自己評価	理 由
C	システムを利用した予約および週1回の配送により、資料の協力貸出を行った。協力貸出冊数は前年度に比べて10.3%減少しているが、研修会、市町村・学校訪問の機会に利用について広報を行うなど、利用促進に努めて、利用件数は例年並みであった。加えて、協力貸出の配送便を活用して、県内各図書館間の相互貸借資料約20,000冊の配送を行った。

委員意見	・協力貸出は県立学校でも利用しており、大変助かっている。 ・利用件数が例年並みであったのに、貸出冊数が減少していることについて、原因の分析が必要なのではないか。全県的に利用減なのか、電子書籍やデジタル資料の充実によるものなのか。
	・おはなし会を、学校に来てしていただけると嬉しい。
	・協力貸出冊数の減少状況を踏まえ、市町村立図書館や学校図書館との連携をさらに強化し、協力貸出の利用促進にさらに努めてほしい。ただ、県立図書館と市町村立図書館・学校図書館では担う役割に違いがあり、役割分担を明確にした上で収集する書籍を選定し、協力貸出を推進していく必要があると考える。
	・少子化が進み、小学校も中学校も統合が進んでいる。学校の数が少なくなっている。将来の協力貸出冊数の減少は目に見えている。そこで、だからこそ「これから」のビジョンを描き、具体的に動き出す時期といえるのではないか。
	・そもそもの現場ニーズが減っているのではないか。

○ その他（評価に関連した委員からの意見）

委員意見	・県立図書館でなければならない取組を進めてほしい。
------	---------------------------